

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月29日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20330160

研究課題名（和文） 日本中世の「大学」における社会連携と教育普及活動に関する研究

研究課題名（英文） Study of social cooperation and the spread of education of “universities” in Medieval Japan

研究代表者

高橋 慎一郎（TAKAHASHI SHINICHIRO）

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：10242158

研究成果の概要（和文）：日本中世の大寺院が都市・社会とどのように連携し、いかなる教育普及活動を展開したのか？という問題を、一次史料の調査収集のうえに追究し、中世ヨーロッパとの比較の視点を加えつつ考察した。長期にわたって宗教者・学者の再生産機能を果たした大寺院は「大学」としての性質を備えていたが、個々の宗教者・学者の拠る子院・塔頭が主要な教場であり、個人の活動に依拠する点が大い点で、近代的「大学」とは異なっていた。その反面、そうした宗教者と都市知識人層との個人的な交誼関係によって、社会一般への柔軟な教育普及活動も可能となっていたことが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：Our study is that how the large temples in Medieval Japan cooperated with cities and societies, and what they did for the spread of education, by researching and compiling the historical materials. The large temples, that had fulfilled the function of reproducing the religious expert long time, were equipped with properties of “universities”. And the personal relationship between the religious expert and the intellectual classes in cities allowed the education to spread to the society easily.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
2009年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2010年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2011年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
総計	10,300,000	3,090,000	13,390,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：教育史、日本史、高等教育、寺院

1. 研究開始当初の背景

日本の大学史に関する唯一の通史といえる大久保利謙『日本の大学』（1943年）は、古代については律令制下の教育機関・大学寮を、近世については江戸幕府が設立した複数の教育機関を、それぞれ項目を立てて論じているのに対し、中世については立項がなく、僅かに近世の前提として足利学校に触れて

いるに過ぎない。

1549年のF・ザビエルの書簡に見える都の大学と近国の四つの大学、そして坂東の大学という記述は著名だが、坂東の大学こと足利学校を除けば、それ以外はいずれも京都五山・比叡山・高野山などの大寺院に他ならない。にもかかわらず、従来これらを積極的に「大学」として捉えようとする視角は存在し

なかった。

すなわち、日本中世の「大学」は寺院社会のなかに埋没してしまい、大寺院を高等教育機関の問題として究明する観点是非常に希薄であった。極言すれば、足利学校を唯一の例外に、日本の大学史において、中世は暗黒時代ともいうべき状態にあるといえる。

西欧中世の大学のあり方の特色として、都市の発展に照応して誕生し、都市社会とともに歩んだことがあげられている。これは、日本における寺院と都市との関係とも一致している。

だとすれば、都市・社会のなかにおける高等教育機関としての大寺院のあり方、高等教育機関としての大寺院と都市・社会との連携のありよう、という問題を追究するなかで、高等教育機関としての大寺院の特性を解明し、中世ヨーロッパとの比較の視点を加えることで、日本中世の「大学」像を構築することが試みられてしかるべきだと考えたわけである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本中世における高等教育機関としての大寺院が都市・社会とどのように連携し、どのような教育普及活動を展開したのか？という問題を、一次史料の調査収集のうえに追究し、中世ヨーロッパとの比較の視点を加えつつ考察することで、日本の大学史における暗黒時代ともいうべき中世について、その「大学」像を確立することにある。

同時に、今日ますます模索されているところの大学と都市・社会との連携のあり方について、参照すべきひとつのモデルを提示することをも期した。

3. 研究の方法

本研究において最終的に明らかにしたいのは、日本中世の「大学」がいかなる存在であったのか、ということだが、そのための主たる考察対象としては、ザビエルが大学と呼んだ6ヶ所のうちの4ヶ所、すなわち京都五山・比叡山・高野山そして足利学校を措定した。この4ヶ所について都市・社会との関係に注目しつつ、高等教育機関としての特性を明らかにする。

具体的には、関連史料の豊富な京都五山および高野山に関する検討が中心になるが、そのうえで比較の視点を重視し、諸機関（寺院）相互、あるいは西欧中世の大学との共通点・相違点に注目しながら、日本中世の「大学」像を明確にすることに努めた。

また、年度ごとに研究会を開催し（2011年度は公開研究会とした）、科研のメンバーがそれぞれの研究の進捗状況を報告するほか、西欧中世の大学史の研究の現状について

ゲストスピーカー（日本学術振興会特別研究員梶原洋一氏）も招いて「ヨーロッパ中世の大学と社会」と題する報告を得た。

4. 研究成果

(1)『大日本古文書 高野山文書』全7冊についてフルテキストデータベース化を行い、東京大学史料編纂所のウェブサイト上での公開を実現した。

データベース化により、史料の多様な検索が可能になり、高野山金剛峯寺における教育普及活動のひとつである「談義」が、紀伊国南部荘をはじめとする高野山領荘園からの「談義」用に特化された年貢によって効率的に運営されていたことが判明した。

また、教育普及に欠かせない「紙」の調達・流通が活発におこなわれており、なかでも「東山紙」と呼ばれる地元産の紙の存在が大きかったことをデータベースによる分析を介して明らかにすることができた。

(2)中世高野山から発信された教育普及活動の痕跡として、広範に存在している木版印刷による仏教教理のテキスト出版物（いわゆる「高野版」）の調査を行い、その伝来・受容の過程を検討した。

その結果、高野版が高野山や地方の寺院における基礎教育の教材として大きな役割を果たしたことが解明された。

(3)各地の寺院等の所蔵史料（文書・聖教・典籍など）の調査によって、中世寺院における学習活動の実態を分析した。

特に、高野山・比叡山・足利学校に関しては、教材の整備や生徒の入学の面において、宗教者間の人的ネットワークが利用されるとともに、教育施設の運営においては近隣社会と密接な関連を有していたことを明らかにした。

(4)京都における五山禅僧の教育普及活動を探るため、室町時代の貴族の日記における五山派を中心とする禅僧の所見を収集し、データベース化をおこなった。

これにより、単独の日記にしか見えない僧侶と、複数の日記にわたって所見のある僧侶というカテゴリーが析出され、前者は記主との間にさまざまな所縁（信仰・血縁・所領経営の請負など）による社会的・経済的な関係を有するもので、後者に属する者が学芸において顕著な活動を示していることが明確になった。

(5)ヨーロッパ中世の大学との比較研究をおこなうために、西洋史研究者の報告をふくめた研究会を数度開催するとともに、パリのカルチュ・ラタン地区に赴き、中世の大学学寮跡の調査をおこなった。

その成果として、独立性の高い学寮における少人数の教育が中心でありつつも、学寮群が空間的には「大学」としてのまとまりをも

つ点で、日本中世の大寺院との顕著な類似性を認めることができた。

いっぽうで、教材の移動の少なさや、領主の関与による政治性の高さなど、ヨーロッパ中世大学の特色も明らかとなった。

以上の諸成果を総合的にみると、日本中世の大寺院は、「大学」という名前こそ欠くものの、長期にわたる宗教者・学者の再生産機能を果たしており、高等専門教育機関である「大学」としての性質を十分に備えていたといえる。

ただし、あくまでも個々の宗教者・学者が拠点とする子院・塔頭などが主な教場となり、個人の活動に依拠する点が大い点で、近代的「大学」とは異なっている。

その反面、そうした宗教者と都市知識人層との個人的な交誼関係によって、社会一般への柔軟な教育普及活動も可能となっていたのである。また、経済的には、寺領荘園を中心とする周辺地域社会との連携が、「大学」の組織としての存続に大きく貢献していた。

なお、教育史の学史的検討（研究協力者の東京大学・教育学研究科・准教授小国喜弘氏による）からも、「学校教育史研究」の、さらに「初等教育史の制度研究」に偏ってきた従来の教育史に対して、本研究のような前近代の高等教育研究は、「教育機関そのものが社会のなかでどう位置づけられるか」などの点で、少なからぬ示唆を提供することができるのであろうとの見通しを得ることができた。

また、論文という形態のほかに一次史料の分析に基づく資料集をも収めた東京大学史料編纂所研究成果報告 2011-5『日本中世の「大学」における社会連携と教育普及活動に関する研究』を刊行した。その内容は、以下の通りである。

・加藤玄「大司教ペイ・ベルランとボルドー大学サン・ラファエル学寮の設立」

・末柄豊「室町時代公家日記禅僧人名索引稿」

・高橋慎一郎「中世における高野版の流通について」

・川本慎自「道庵曾頭の法系と関東禅林の学問」

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

①末柄豊、大覚寺所蔵『勸修寺慈尊院私抄目録』、室町時代研究、査読無、3号、2011年、85—100頁

②末柄豊、大永五年に完成した將軍御所の所在地に関する覚え書、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信、査読無、54号、2011年、10—15頁

③高橋慎一郎、鎌倉と災害、中世都市研究、査読無、14号、2008年、141—160頁

④末柄豊、『不問物語』をめぐって、年報三田中世史研究、査読無、15号、2008年、1—37頁

〔学会発表〕（計2件）

①末柄豊、禁裏文書にみる室町幕府と朝廷、大阪歴史学会大会（中世史部会）、2011年6月26日、於神戸大学

②高橋慎一郎、醍醐寺文書から読み解く中世の社会、シンポジウム醍醐寺の歴史と文化財、2009年11月14日、於日本女子大学

〔図書〕（計9件）

①高橋慎一郎・末柄豊・川本慎自・加藤玄、日本中世の「大学」における社会連携と教育普及活動に関する研究、東京大学史料編纂所、2012年、全98頁

②高橋慎一郎、武士の掟—「道」をめぐる鎌倉・戦国武士たちのもうひとつの戦い—、新人物往来社、2012年、全199頁

③高橋慎一郎（共著）、古代・中世の境界意識と文化交流、勉誠出版、2011年、137—141頁

④高橋慎一郎（編著）、列島の鎌倉時代—地域を動かす武士と寺社—、高志書院、2011年、261頁

⑤高橋慎一郎（共著）、善光寺の中世、高志書院、2010年、7—20頁

⑥高橋慎一郎（共著）、伝統都市2 権力とヘゲモニー、東京大学出版会、2010年、155—178頁

⑦高橋慎一郎、中世都市の力—京・鎌倉と寺社—、高志書院、2010年、全239頁

⑧高橋慎一郎（編著）、史跡で読む日本の歴史6 鎌倉の世界、吉川弘文館、2010年、258頁

⑨高橋慎一郎（共編著）、中世の都市—史料の魅力、日本とヨーロッパ、東京大学出版会、2009年、全269頁

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/shinichi/daigaku.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 慎一郎 (TAKAHASHI SHINICHIRO)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：10242158

(2) 研究分担者

末柄 豊 (SUEGARA YUTAKA)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：70251478

(3)連携研究者

及川 亘 (OIKAWA WATARU)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：70282530

川本 慎自 (KAWAMOTO SHINJI)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：3023661

加藤 玄 (KATO MAKOTO)
2008年度：東京大学・人文社会系研究科・
助教
2009～2011年度：日本女子大学・文学部・
准教授
研究者番号：00431883